

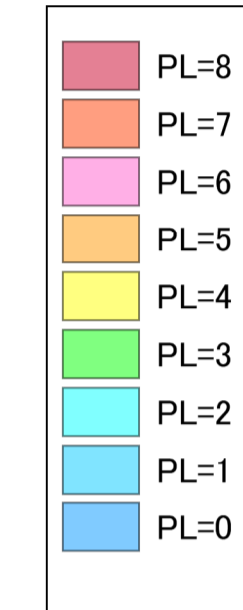
液状化危険度マップ（直下の地震）

よく締まっていない砂地盤では、地震時に液状化が生じる可能性があります。このマップは、可児市直下でマグニチュード6.9の地震が起こった場合の液状化危険度を予測したものです。

色分けの指標は、液状化の激しさを表すのによく用いられるPL値を用いています。PL値と液状化の程度の関係は、右上の表に示しました。

PL値と液状化の程度との関係

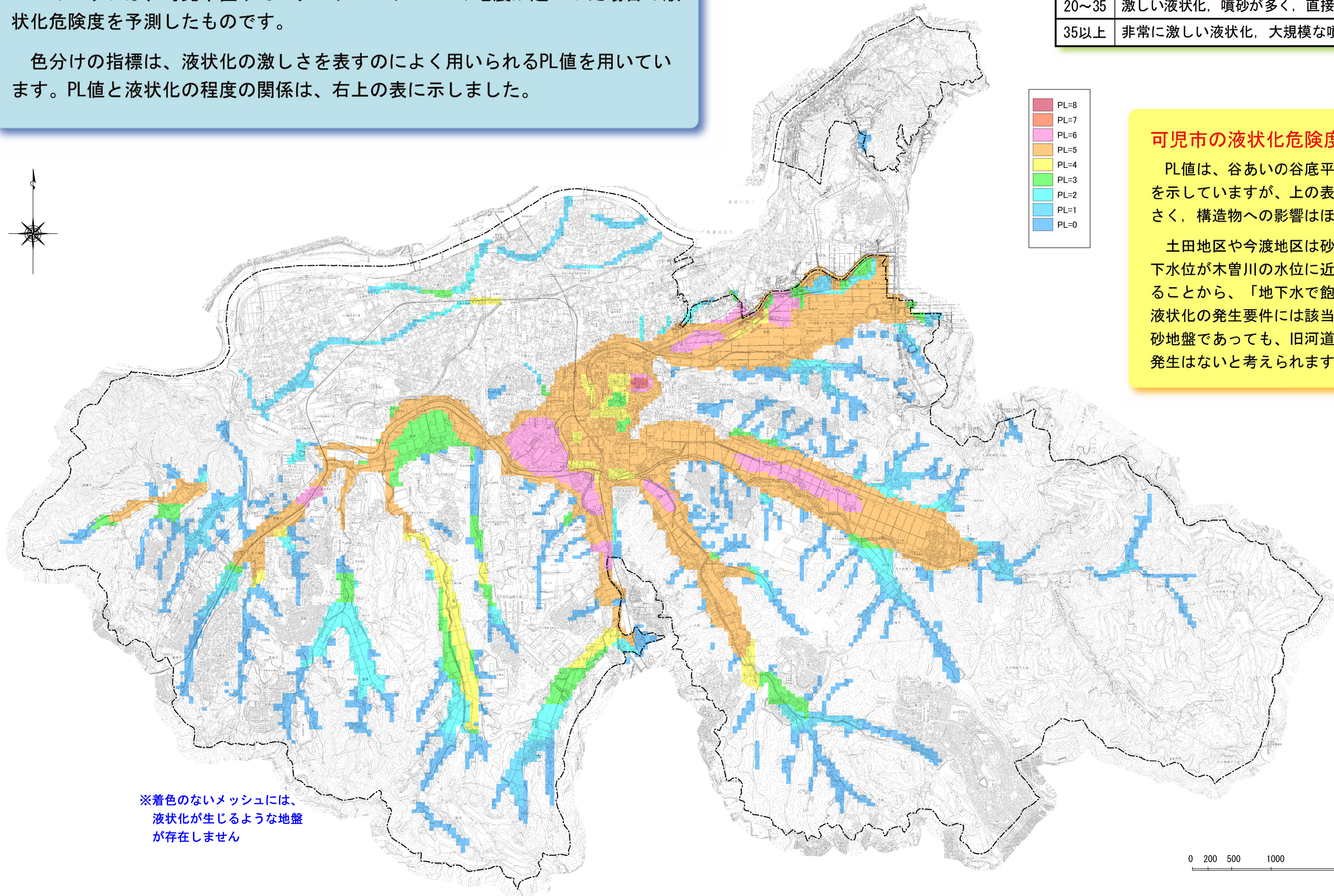
PL値	液状化の程度
0~5	液状化はほとんどなし、被害なし
5~10	液状化の程度は小さい、構造物への影響はほとんどない
10~20	液状化は中程度、構造物によっては影響の出る可能性がある
20~35	激しい液状化、噴砂が多く、直接基礎の建物が傾く場合あり
35以上	非常に激しい液状化、大規模な噴砂と構造物の被害



可児市の液状化危険度

PL値は、谷あいの谷底平野などで最大8以下の値を示していますが、上の表より、液状化の程度は小さく、構造物への影響はほとんどないと言えます。

土田地区や今渡地区は砂地となっていますが、地下水位が木曾川の水位に近く、かなり深い位置にあることから、「地下水で飽和された砂地盤」という液状化の発生要件には該当しません。したがって、砂地盤であっても、旧河道部を除いては、液状化の発生はないと考えられます。



※着色のないメッシュには、液状化が生じるような地盤が存在しません